

教員養成に対する理念・構想

大阪電気通信大学の起源は、1941年に創設された東亜電気通信工学校まで遡ることができる。そして直接的には、1958年に創設された大阪電気通信短期大学が前身となる。本学は、その50年以上の歴史において、常に社会と産業の将来を見ずえて先端技術を究め、また新たな文化・産業を創造することにより、社会進歩に貢献することを目ざしてきた。その基本理念は、以下の3点に集約される。

- (1) 広く先端科学技術を究め、それを支える有能な人材の育成を目ざす。
- (2) 時代の先端を行く新しい文化・産業を創り出し、社会進歩に貢献できる責任ある人材の育成を目ざす。
- (3) 生命を尊び、地球環境に優しく、真理の探究と理想に燃える人材の育成を目ざす。

本学における教員養成の基本理念は、上記の建学の理念と不可分な関係にある。

すなわち、基本理念としては、先端的科学技術を究め、新しい文化・産業を創出できる人材育成のための科学技術の基礎教育と、自然と人間の尊厳を守ろうとする人間性の涵養をめざす総合的人間教育を融合させることにある。

具体的には第一の目的は、数学、物理、化学、工学、情報科学などの学問的基礎を十分に身につけ、柔軟かつ論理的な思考力・表現力を発達させ、実験という科学的方法の楽しさと優位性を感得した科学者としての資質を体現した教師を養成することである。そうすることで、生徒の学力の形成にあたれる十分な力量をもつことになる。第二の目的は、その基礎的力量を人間理解に敷衍し、生徒の一人ひとりの内面、要求、生活の背景を深く認識し、愛情と共感をもって、人格の発達を保障しようとするヒューマニズムを併せもった教師を養成することである。この二つの目的を達成していくことは容易ならざることである。それゆえに本学では、「教職に関する科目」とどまらず、一般教育科目(総合科目)などで、人間・文化・社会に関する科目、「日本語上達法」などの履修や教員との深い交流を通じて、自然と人間の本質的な理解を深めようとする学生の基本姿勢を、意図的に培ってきた。そうすることで、国民と地域社会の要請に応えうる大学たらんと努めてきた。

上記の教員養成の理念のもとでの、本学では以下のような教員を養成しようとしてきた。

- (1) つねに学び、実験し、たしかな専門性を身につけようとする科学者としての姿勢を身につけた教師
- (2) 子どもの内面をとらえ、深い信頼と愛情をもって向き合うことのできる人間性豊かな教師
- (3) 子どもや親の願い、社会の要請に耳を傾け、つねに自分を高め、発達させていこうとする自己教育力をもった教師

理念で述べたように、工学部(5学科)、医療福祉工学部(3学科)、情報通信工学部(2学科)、

総合情報学部(2 学科)、金融経済学部(1 学科)を擁す本学は、工学的基礎教育を中心とした教科教育とともに、その技術を社会進歩と人間の尊厳の確立のために役立てる総合的な人間教育を行うことのできる教職課程の創設を、設置趣旨としてきた。その点で、「教職に関する科目」を担当する教員の多くが「人間科学研究センター」に所属し、「人間の探求」「文化の理解」「社会の認識と人権」などの総合科目を担当する人文・社会系列の教員組織と連携しつつ、教育内容・方法を検討する体制は、意義あるものである。